

ノリ養殖システム確立調査事業

野口浩介・山田秀樹・岩永卓也・中原啓太

良質ノリの生産安定を図るため、ノリ養殖期間中にノリの生育状況や海況に関する情報を発行するとともに、2024年度ノリ漁期における養殖および海況の概要を整理したので報告する。

方法

海況調査

2024年10月から2025年3月にかけて、週1~2回程度の定期調査に加え、栄養塩減少時等には臨時調査を実施した。図1に示す10定点において、昼間満潮の前後2時間以内に多項目水質計で表層の水温および塩分を測定するとともに表層の海水を採取した。採取した海水は持ち帰った後、植物プランクトンの種類および細胞数を調査するとともに、溶存無機態窒素（DIN）を測定した。



図1 海況調査地点

ノリ生育調査

2024年10月から2025年3月にかけて、週1回程度の定期調査に加え、病害発生危険期および病害発生時等には臨時調査を実施した。ノリ養殖場から養殖網糸もしくはノリ葉体を採取して持ち帰った後、生長、色調、病気の感染状況等を確認した。

結果

本年度の各種情報は、表1に示すとおり海況速報を計38回、ノリ養殖情報を計22回発行した。作成した情報については関係機関等に情報提供するとともに、当センターのホームページに掲載した。

これらの情報をもとに、本年度の海況および養殖概要を以下のとおり整理した。

表1 各種情報発行日

月	海況速報	ノリ養殖情報
10月	21日, 24日, 29日, (計3回)	4日, 7日, 11日, 16日, 25日, 31日 (計6回)
11月	1日, 8日, 12日, 15日, 19日, 26日, 29日, (計7回)	5日, 13日, 20日, 22日, 28日, (計5回)
12月	2日, 9日, 12日, 16日, 19日, 23日, 27日 (計7回)	5日, 10日, 17日, 24日 (計4回)
1月	6日, 9日, 13日, 20日, 23日, 30日 (計6回)	16日, 27日 (計2回)
2月	3日, 6日, 10日, 13日, 17日, 20日, 25日, 28日 (計8回)	12日, 18日, 26日 (計3回)
3月 4月	7日, 14日, 17日, 21日, 25日, 28日, 2日 (計7回)	4日, 11日 (計2回)

1. 海況（図2）

水温は、10月上旬から11月下旬にかけて平年よりも高く推移した。その後、平年並みに推移したが、2月から3月にかけて平年よりも低めに推移した。比重は、期間を通して平年よりも高めであった。栄養塩（DIN）は、11月下旬までは平年より高めの期間もあったが、その後は非常に少なめで推移した。

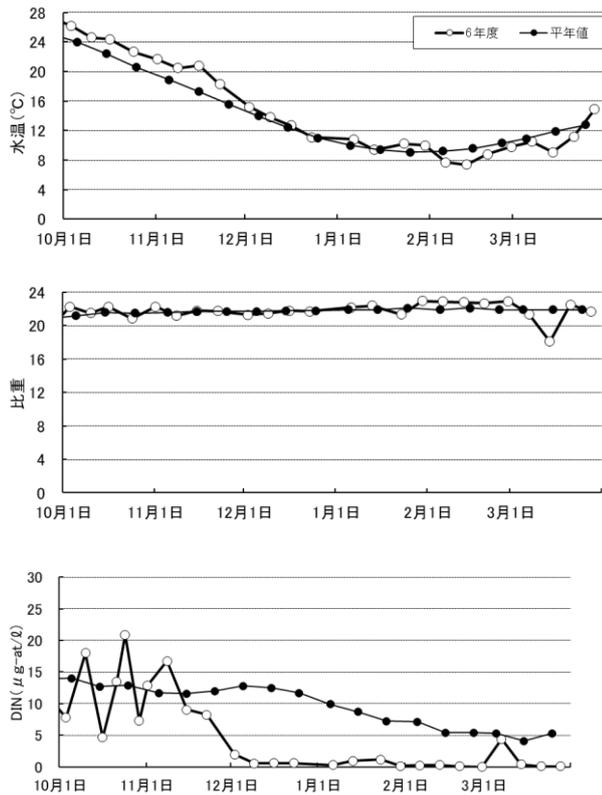


図2 2024年度ノリ漁期の水温，比重，DINの推移

○は2024年度，●は平年（1989～2023の平均）を示す

2. 養殖概況

10月17日18時（採苗日としては、18日）から開始され、27日にはほぼ終了した。採苗時の水温は25.2℃で、平年（H19年度以降の採苗日の平均21.6℃）より甚だ高めであった。芽付きは、網による差はあるものの、8.0個/視野であった。ノリ芽の生長は、最大葉長は例年通りの生長であったが、採苗が長引いたことあり、平均葉長は例年よりも遅い結果となった。採苗が長引いたことで干出不足の網が多く、ヒドロ虫やボド、付着珪藻類が非常に多い状況であった。高水温が継続したこと、干出不足もあったことから、根の形成が貧弱でヒキが弱い傾向にあった。

また、ノリ芽は細葉傾向で、ねじれ等も確認された。二次芽の着生は例年通りであったが、付着珪藻などで汚れた網は少ない傾向となり、個人差が大きかった。アカグサレ病の発生11月14日に東部漁場で初認された。その後、11月下旬にかけて重症化したが、12月に入り小康状態となった。摘採は11月21日頃から本格化した。採苗が遅れた生産者や地区で、摘採が遅くなった。1回目摘採までは色落ちの影響は少なかったが、2回目以降色落ち被害が大きくなった。11月上旬に発生したアカシオ・サングイニア赤潮が発生し、11月下旬にキートセロス属が増加したことから、全地区で栄養塩が低下し、色落ちが確認された。その後、キートセロス属は減少したものの、アカシオ・サングイニア赤潮は継続し、かつその期間少雨であったことから全地区で被害が拡大した。1月15日までに秋芽網が撤去された。

冷凍網の張り込み（出庫）は1月23日に出庫（全地区8割以内）した。出庫後の戻りは、一部芽付きが薄くなるような芽流れがあったものの、全体的に良好であった。摘採は低水温・低栄養の影響でノリの伸長が鈍く、地区、支所により開始時期が大きく異なったが、2月上旬には多くの地区で開始された。アカグサレ病の発生は低水温の影響によりアカグサレ病の発生が遅く、2月26日に初認された。3月中旬以降、降雨等の影響により、徐々にアカグサレ病が拡大した。壺状菌病の発生は未発生であった（九州4県全て）色落ちの発生は、1月中旬にユーカンピアが赤潮化し、全域で、色落ちが発生した。その後も、ユーカンピア赤潮が継続したため、重症化した状態が継続した。色落ちの被害は、長期間発生したユーカンピア赤潮の影響により、全地区で大きかった。栄養塩添加は実施計画は出されていたもののプランクトン細胞数が多かったこともあり、栄養塩の添加は行われなかった。共販枚数は約9.6億枚、共販金額は約232.9億円と、直近5年間の平年値と比較すると、枚数で約68%、金額で約110%であった。共販枚数及び金額ともに、兵庫県を下回り2位となった。